

幸小学校のESD活動

<活動の概要>

当校は、「笑顔あふれる元気な学校」（思いやりのある子・すすんで学ぶ子・たくましい子）を学校理念として、地域や社会のさまざまな問題を捉え、実体験や調べ学習などを通して、ESDの実践を通して考える力の育成を目標としたESD活動を展開している。具体的には、①環境に係る学習、②福祉に係る学習、③防災に係る学習を行った。

・活動の実際

① 環境に係る学習

4年生は、環境教育の一環として、本市のごみ問題に着目し、学習に取り組んだ。まず自宅の家庭ごみの種類や量の調査をした。ごみを11種類に分別していることを知り、その分別方法や処理の仕方を新聞にまとめた。そこで、ごみを自分たちの手でもっと減らしていかななくてはならないことに気づくことができた。次に、校区の飲食店やスーパーの数の多さに着目し、「MOTTAINAI」について学習した。あけぼの給食センターやスーパーを訪問し、食品ロスへの関心を高めた。さらに、飲食店で勤めている保護者へアンケートを取り、食品ロスへの思いを高めた。「MOTTAINAI」を少なくする取り組みとして、新聞や校内放送で発信するなど、自分のできる取り組みをした。今後も環境問題を考える機会を今後も増やしていきたい。



①調理場を見学する4年生

② 福祉に係る学習

5年生は、「ともに生きる」をテーマに、福祉に関する学習に取り組んだ。出前講座「人にやさしい町づくり塾」では、校内で車椅子体験を行った。何気なく生活している学校の中でも、小さな段差や溝がたくさん存在し、車椅子で生活するには困難な環境であることに気づく児童が多くいた。これをきっかけに、福祉に対する意識の高まりが見られ、幸校区の施設や通学路にも目を向けるようになった。また、ユニバーサルデザイン、手話、認知症など、視点も広げて個人追究に取り組み、自分のできることにについて新聞にまとめた。今後も、充実した福祉教育をすすめていきたい。



②車椅子を体験する5年生

③ 防災に係る学習

6年生は、「わたしたちと防災」をテーマに実践した。単元の導入は、市防災危機管理課の方に来ていただき、起震車体験や防災講話を聞いたり、体育館に設置された避難用のテントで過ごしたりする場をもった。災害に対しての危機意識を高めたところで、その後、日本で起きた過去の災害や防災についての調べ学習を行った。近い将来、起こると言われている大規模な地震を想定し、過去の災害における被害状況や、どのような対策が必要かといったことについて調べ、自宅のできる防災対策を実践し、新聞にまとめた。今後もいつ災害が来てもいいように防災対策を更新していき、防災意識を高めていきたい。



③起震車体験をする6年生